

西部) 令和コミュニティトーク 要約

日 時：令和6年7月31日(水) 14:00~16:03

場 所：サンアリーナせんだい 研修室・会議室

出席者

市：田中市長、福元副市長、未来政策部長、建設部長、教育部長、秘書広報課長、コミュニティ課長

地 域：水引中校区、平成中校区の10地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民55人

(合計77人の参加)

1 地区振興計画について

【水引地区】

- ・地区全体の課題は、少子高齢化によって人口が減少し、31自治会中、18自治会が高齢化率50%以上となっている。このため、地域活動の担い手が不足している状況である。
- ・重点項目の1つ目は、「こころ豊かな子どもを育むまちづくり」である。少子化で地区内の小・中学校生の減少に歯止めがかからなくなっている。加えて高齢化が進み、デイサービスや施設入所者が多く、3世代交流の企画を立てても、参加する人が減少傾向にあり、企画の遂行が年々厳しくなっている。世代間交流は、地区形成に欠かせないものであり、継続していかなければならない。
- ・2つ目は、「きれいな景観と豊かな自然で快適なまちづくり」である。課題としては、水引地区内でポイ捨てや不法投棄が集中しているため、見回りの強化、看板設置をさらに行う必要がある。ごみの分別が徹底されるようになってきているが、継続及び向上のため、研修・広報活動を行い、より一層の意識向上を図っていきたい。また、7月6日に海岸清掃を行った。グランピング施設ができており、近くにゴミが3袋ぐらい大量にあったことについて、フリートークの時に質問をしたい。
- ・3つ目の「元気で安心して暮らせるまちづくり」について、高齢化が進捗し、社会福祉活動が多忙となってきた中、部会の高齢化・人手不足が進み、今後の活動を見直す必要がある。高齢者・孤立者の心身改善のため、社会福祉協議会の方にも指導をいただきながら、サロンとはんとけん体操を推進していくことが目標である。自治会長であっても、高齢者などがどんなことに困っているのかということが、把握できていないと思うので、これからも自治会のことは自治会で支え合う地域を目指していきたい。

【滄浪地区】

- ・少子高齢化が進み、なんとか活動を行っている状況である。
- ・今年は、九州電力(株)やさまざまな方の協力を得て「建て網干し漁」を開催でき、さまざまな場所から参加者が集まり、地元としては大変嬉しかった。来年も続けられるよう、外部の方々に少しでも協力いただけないかお願いする状態である。
- ・「想夫恋」について、今年も開催予定だったが、少子高齢化のため中止にした。今年何回か話し合いをしたところ、やはり若者がいないとできないことから、来年からはいろいろな活動をしているところに声をかけて、開催できるように模索

していきたい。

- ・地元の人も高齢化が進み、「きつい」「暑い」など色々な問題が出るなかで、行事を続けるのが大変になっている。これからも地球温暖化が進行し、暑さが厳しい夏場にこのような活動をするのも大変である。
- ・今年もみらいゾーンは着々と進んでいるが、地域でも色々なイベントができるようになり、様々な企業が入ってきている。これからもっと地域が活性化されれば良いと思う。

【寄田地区】

- ・寄田地区では、高齢化及び人口減少が続いており、コミュニティ活動の範囲が限られ、今後の活動の継続に苦勞しているところである。
- ・前回のコミュニティトークで発表した通り、第5期地区振興計画においては、防犯防止における消防団との連携事業、景観・自然保護運動事業、定住促進推進事業を重点課題として取り組んでいきたい。
- ・防犯防止における消防団との連携事業については、消防団との連携を図り、不審者や不審火の監視など、自主防犯、自主防災組織活動の推進に努めてまいりたい。
- ・景観・自然保護運動事業については、高齢化に伴い、耕作放棄地が増え、望楼台などの史跡やオニバスなどの自然遺産を景観保全の立場から保護していくことが、地区として取り組むべき事業であると考えている。
- ・定住促進事業については、具体的な対策は今のところないが、人口減少及び空き家対策として、空き家を活用した事業として展開できないかと考えている。
- ・今後の事業の推進については、まずマンパワーが足りないため、新しいことにチャレンジしていくことは困難なところもあり、まずは地区住民、特に高齢者の安心安全を守ること、ここにしかない自然や文化を後世に引き継いでいくこと、人口減少や高齢化による地区の衰退を少しでも防止することが、今後の大きな使命であると考えている。
- ・人口減少及び高齢化が進んでいることから、自治会の再編についても重要な取り組み課題として認識している。住民の方々に若干の抵抗感もあることから、住民の意見をよく反映させながら取り組んでまいりたい。
- ・今後の各事業や取り組み課題においては、協議会を中心に、行政の協力を仰ぎながら推進していきたい。

【八幡地区】

- ・現在の地区の世帯数は、約 600 で人口が 1,100 人、65 歳以上の高齢化率は 51.5% である。
- ・令和 5 年度は、コロナ禍の脱却が進む中、いろいろな事業を復活させるにあたり、まだ協議・策定の途中だった。
- ・第 5 期地区振興計画の重点 3 項目については、1 点目の人材育成、組織の見直しについては、青少年育成部会を中心に、無理のない手づくりの小さなイベントを後押しして、青少年の郷土愛の醸成に努めたい。婦人部の活動が難しくなっている状況も踏まえ、男女を問わず、状況に応じて協力をお願いする体制に変更している。
- ・2 点目の地区事業の見直しと再編については、各々の部会で現在協議中の段階で

ある。

- ・3点目の石蔵の利活用については、地区民が気軽に集える拠点とすることを目標にしている。
- ・これまで利活用の幅を広げるための設備・整備が進んできた。石蔵実行委員会を中心に、今後、親子映画教室、石蔵フォトコンテスト、石蔵祭り、ひな祭りスタンプラリー等のイベントを計画している。
- ・地区コミュニティ協議会事業としてではないが、この度、地区の有志その他関係者のご尽力により、7月1日に八幡児童クラブが開所の運びとなった。開所にあたり、この場をお借りし、改めて子育て支援課を中心に、長期間にわたるご指導・ご支援などに対し、厚くお礼申し上げる。

【高来地区】

- ・第5期地区振興計画の目標として「水とふれあい 人にやさしい 地域の声が生きるまち たかき～自然環境の保全・住民参加による魅力あるまちづくりを目指して～」ということを目標に掲げた。
- ・第4期の際には、「地域の声」のところが若者と女性の声と限定されていたので、これを地域全体に改めた。「魅力あるまちづくりを目指して」とあるように、地域の皆さんが住みやすい、住み続けたいと思うまちづくりにしていきたい。
- ・諸行事に各種団体、地域が一丸となって取り組んでおり、子どもを最優先した活動を行っている。特に地域づくり部会の高城川・川祭りや青少年育成活動、福祉部会の活動、防災防犯活動等の活動を始め、すべての部会活動にその思いがにじみ出ている。
- ・とにかく地域住民の心が非常に温かく、コミュニティ協議会としても色々な活動が推進しやすい状況にある。
- ・困っていることは、どの地区もそうだが、少子高齢化により、世帯人口が減少傾向にあるということ。
- ・高来地区は本来純農村地帯だったが、近年は工場進出・拡張が進み、交通渋滞が非常に激しい時間帯があり、昔ながらの生活環境を維持していくことが難しい状況にある。特に工場周辺の地域がほとんど駐車場になり、地区本来の環境を保全しながら、地域住民にやさしい魅力あるまちづくりが強く望まれる。
- ・今後、本地区の良いところと課題等を踏まえながら、良いところはさらに伸ばしつつ、課題解決に向けて、若者や女性の声だけでなく、地域全体の声が届く魅力あるまちづくりを目指していきたいとの思いで目標を設定した。
- ・第4期地区振興計画では37項目の施策があったが、第5期では20項目に精選し、活動を継続していく方針である。
- ・その中で、地区の重点3項目として、1つ目は、高城川・川祭りの実施と会場「清流の里」整備事業を推進していきたい。
- ・2つ目は、伝統芸能の組織的な伝承・保存活動の取り組みを強化していきたい。
- ・3つ目は、生涯学習の場としての文化祭の充実を図っていきたい。自主学級数が減少する中で、学習発表の場が少なくなっている。どのような形で盛り上げていくかが今後の課題である。
- ・高来地区としては、この目標に沿った活動ができるようにしていきたい。

【城上地区】

- ・「相互扶助の精神で、地区住民が主役のまちづくり～笑顔でつながる、元気なまち“じょかん”～」というスローガンのもと、男性が462人、女性が488人、計950人の452世帯である。高齢化率が44.4%と非常に高齢化が進み、少子高齢化が著しい。また、以前は6自治会あったが、令和4年度から今寺、下塚、上塚、中間の4自治会に再編し、行事等で非常に苦慮している。
- ・城上の良いところは、自然豊かで水がきれい、上下水道が完備、地区民一体となった環境保全活動、子育てに適した地区であるところ。
- ・困ったところが、少子高齢化、雨の多い地区で風水害災害の心配、役員のなり手がいないということで、5期計画の中でも3つの重点項目を立てている。
- ・地区ふれあい広場を設置して地区住民の交流の場とするということについて、各種スポーツを通じて、地区住民の世代間交流を図ることを目的としている。地主とは契約済みであるが、なかなか困難な状況もあることから、今後行政とも相談しながら計画していきたい。
- ・2つ目の小地域ネットワークについて、認知症の予防やミニスポーツを通じて、心と体の健康増進を図り、一人暮らしの孤独死をなくす。そのために各自治会で、グラウンドゴルフやスクエアステップなどを実施している。また、まるごとささえ愛事業があったが、マップづくりを計画しており、社会福祉協議会の協力をいただき、実現に向けて進めていきたい。
- ・3つ目の風水害を想定した関係機関との自主防災訓練の実施と地区内の危険箇所の点検について、風水害を想定し行政機関と自主防災組織の連携をする訓練を実施していきたいと考えている。危険箇所を点検し、行政と対策を練る予定である。また高城川について、雨が多い月は、河川が溢れ堤防を越境する恐れがあるため、高城川の河川改修の要望書を以前から出している。
- ・4月の総会時には、高城川の濁りの指摘があり、業者と関係機関の協力により水質検査も実施している。現地視察後、引き続き問題ないことを確認し、地区内にも回覧した。また、当事者にも説明している。
- ・現在、郷土芸能の太鼓踊り、川まつり、納涼祭に向けて、地区民、役員が取り組んでいるところである。

【陽成地区】

- ・陽成という地区名について説明する。いわれとしては、陽気発する処金石また透す、精神一到何事か成らざらん。最初の「陽」と最後の「成」の字をとって、「陽成」という名前になっている。
- ・第5期地区振興計画の目標を「陽気に全員参加で笑顔にみちたボランティア活動を生きがいとし活力あるまちへ」とした。
- ・今回、地区振興計画を策定するにあたり、部会構成を見直した。具体的には、青少年育成部会を廃止し、生涯学習部会に統合した。背景としては、近い将来同じ人が部会長をしながら、PTA代表をしながら、こども会の代表をしながらというようなことが危惧される。子育て世代の方々の負担感の軽減を図りたいことから、生涯学習部会の中に統合したところである。
- ・重点3項目について。1つ目は、地域生活支援事業（ちいきささえ愛）について、介護が必要となっても住み慣れた家でいつまでも安心して暮らすために、地域マップを作ることにより、困りごとのある方々の支援をしていきたい。例え

ば、ごみステーションにごみを持って行ってってくれる人は誰かいないのかという切実な声を聞いている。

- ・2つ目、自主防災の充実について、市からいただいた防災マップと合わせて、生活道路側面傾斜地高木、住宅廻りの高木、倒木、地滑りなどの危険がないか現状調査を行い、マップを作製し各住民が今の情報を知ることが重要であると考えている。そのようなことから二次災害等を考慮すると、事前に自主避難を促すための自主防災組織の行動計画の作成が重要である。現状調査に基づきながら、災害予防の観点からも皆さんの意見を持ち寄り検討し、個人、自治会、行政と連絡してまいりたい。
- ・3点目、地区内自治会再編検討会について、各自治会の運営状況等を調査するとともに、市内の統廃合した自治体のその後を把握しながら、地区内自治会組織のあり方を検討してまいりたい。
- ・地区振興計画に搭載することにより、それぞれの自治会からの発言が容易となり、俯瞰的な調整と協議を可能とし、今後を見据えた自治会組織のあり方についての検討を進めてまいりたい。

【吉川地区】

- ・吉川地区は4自治会で101世帯、高齢化率68.2%と、他地区同様に高齢化が進んでいる。そこで、「一人一人が主役 人情と緑豊かな自然・心豊かに暮らせる吉川」をテーマに活動している。
- ・できることできないことを見直し、今年の4月総会にて、5専門部から4専門部へ減らした。青少年育成部を文化振興部に入れた。
- ・重点3項目は、自主防災組織の見直し（防災、防犯対策の充実）、健康講座、体操教室（支え合いによる高齢者福祉の充実）、ふれあいスポーツ大会（誰でもできるスポーツの振興普及）ということ掲げている。
- ・活動の体系について、昨年4年ぶりに夏祭りを行い、150人集まればいいなと考えていたが、250人程参加していただいた。
- ・ホテルを観る会は、昨年、今年度も85人程参加があり、行事として定着してきたのではないかと考えている。
- ・生涯学習の中の自主学級で、吉川地区には、「幸寿会」という高齢者クラブがある。メンバー13人と、先行きが不安だったが、会員の加入促進を図ったところ、21人に増え、誰よりもどこよりも弾み若さのある高齢者クラブになった。加入促進をして良かったと思っている。
- ・今年も夏祭りを計画しており、250人程集まればいいなと思う。自前で宣伝なしで進めていきたい。

【湯田地区】

- ・「みんなが地区を愛する心を持ち 豊かな自然を活かし 魅力あふれる地域をつくる」を湯田地区コミュニティ協議会発足当時の目標として活動を行っている。
- ・高齢化率が55.6%で、これはどの地区においても問題視されているが、湯田も半数以上が高齢者である。
- ・ひと昔前までは、湯田地区の人口を増やそうと、人を呼び寄せようということを大きな目標として活動していた時期もあったが、今ではなかなか厳しい。

- ・今住んでいる地区住民が安心・安全に日々の生活を送り、その中でほぼ毎月行われている行事、イベントなどに積極的に参加をし、楽しみ・気晴らしをしていただけ「湯田に住んで良かったね」と思っていただけのような活動を行っている。
- ・重点3項目として、「快適なまち作り」、「スポーツによる交流・健康増進・友愛を図る」、「湯田のまちの活性化」を挙げている。
- ・湯田ではほぼ毎月行事、イベント等が行われている。このことについては、ほとんど同じ人（特に自治会長）に負担がかかるが、地域のためになるということで、準備から片付け等積極的に参加をさせていただいている。
- ・湯田地区コミュニティ協議会の運営で一番良いところは、毎月25日に「自治会長会」が行われることである。これは土・日曜日、祭日であっても25日に行われる。ほとんどの自治会長が他の用事を避け、参加させていただいている。色々な運営情報などの共有ができ、コミュニティとしては非常に運営がしやすい。
- ・その他に郷土芸能として「兵六踊り」があった。最近5、6年は途絶えていたが、今年はぜひとも復活させたいということで、兵六踊りの会長さんが進めているが、人を集めることが厳しい状況である。
- ・9月に神社の祭りがあり、以前のように奉納に間に合わせたいとのことだったが、なかなか厳しいということである。コミュニティ協議会としては積極的に協力をしてきたいと思っているが、高齢化で若い人がおらず厳しい状況にある。
- ・前年度までは婦人会の組織があったが、どうしても続けられないということで、女性の活動・活躍については、婦人会という組織ではなく、地区内において協力していただける女性には、年齢制限なしに積極的に色々な行事に参加し協力いただけるよう、コミュニティ・自治会を中心に参加を促していきたい。
- ・子どもが少なく子ども食堂としては無理があるが、高齢者は多く、月1、2回でも、高齢者食堂を地域のボランティアで作って参加していただき、地域の拠り所としていただけるよう社会福祉協議会に協力をいただきながら進めている。

【西方地区】

- ・第5期地区振興計画の策定にあたり、各担当部会に、第4期地区振興計画の全ての事業項目について、見直しをお願いし、達成できたもの・今後も続けていく方が良いもの・ここで終了してよいものに分けていただいた。
- ・また、小さな拠点づくりの会議を実施する計画だったので、まず地区の現状と課題を知るべく住民アンケートを行った。西方の良いと思うところ、西方で暮らす上での生活の困りごと、西方で暮らす上での今後の不安、こうしたいと思うところなど、意見を述べてもらった。その結果を参考に、会議メンバー26人と、薩摩川内市や社会福祉協議会の方々にお手伝いをいただきながら、小さな拠点づくりに向けてワークショップを実施した。まず印象的だったのは、今後さらに西方の人口減少は続くが、約40年後には2015年比で約5割になると予測されること。その結果から、今後西方で安心して暮らし続けるためにはどうしたらよいかという会議になった。このような結果をもとに、策定メンバーである運営委員会で十分に話し合いを行ったところ、「地域の良いところを大切にしながら、気になるところを解決し、みんなが安心して住み続けられるような地域にしたい」、「自分の地域に愛着を持ち、地域を良くしたいという思いを持つ人や、地区住民が交流できる機会を設け、地区住民間の繋がりを維持したい。」という意見が出た。そのためには、次世代の担い手である人材の確保・育成は喫緊の課題である。

- ・まちづくりの目標、基本方針 22 項目の主な活動及び事業例の計画案をまとめ上げ、住民の皆様にも配布し、ご意見をいただき、納得していただき、総会で確認をした。その 22 項目の中から、重点項目の 3 点を決定した。
- ・1つ目は、次世代を担うリーダーなどの育成を行うこと。地区の問題に立ち向かっていくためにも、持続可能な地区を作り上げるための取り組みや活動を行うためにも、若い力が必要である。そこで、性別を問わず、地区の将来を考えてくれる若者、地区外に行っても週末には実家の農業などを手伝う者やコミュニティ活動を支えてくれる者、消防団の担い手になっている者、市外などにも同級生や生まれ故郷に必要な情報を提供してくれる者などで交流人口を増やし、情報交換を行いながら、可能な範囲でコミュニティ協議会組織の効率化を図り、まちづくりを推進するためのリーダーなどの人材育成を考える。
- ・2つ目は、西方の良さやイベントなどを広く発信すること。西方の良いところを知ってもらい、訪れる機会にさせていただきたい。外部から見た地域資源や強み、浦小路から白滝までの地域の魅力を効果的にアピールする写真、動画やアニメなど、地区内外に向けた PR 方法などについて検討を行い情報発信したいと考えている。
- ・3つ目は、地区コミュニティ協議会の収益事業を考えること。収益事業については、人が訪れる時期、時間、利用できる場所、費用や維持費、細かい経過などを協議しながら、できることから始めようとしている。単年度の細かい事業計画については、各部会でその都度作成し、PDCAをまわしたいと考えているところである。

市長コメント

- ・振り返ると、これまでの第 4 期地区振興計画の期間は令和元年から令和 5 年度までであり、令和 2 年度から令和 5 年度まではコロナ禍にあったことから、なかなか集会もできず、滞り感があったと思う。そして、新しい計画について話し合い、策定いただいた。5 年経過したこととコロナ禍を経たことで、他の地区同様にイベントに対する考え方、あるいは懇親会に対する考え方も変化が出てきたような印象を持っている。先ほどこれまでの地区振興計画を振り返りながらできることを精査し、発表いただいた。やはりこのような場で、自分の地区の地区振興計画を聞くことや、隣の地区の地区振興計画を聞くということは非常に大事だと考える。具体的に言うと、自分たちの地区と同じことをしている・自分たちだけがしているというような比較が、これからは大事だと思う。
- ・イベント開催について、まだ難しい面もあるが、1つのやり方として、子どもたちを中心に 3 世代・多世代交流というイベントの方が地区住民総参加できるという考え方に共感している。また、どうしても人口減少の中で各地区内の人口が少ない場合は、地区外の方に加勢いただく仕組みがこれからは大事だと思う。住んでいる人と観光に来る人の間にいる「関係人口」という言葉がある。いわゆるイベントを準備からイベント開催、片付けまでしていただけるような、観光以上定住未満の方々。このような関係人口を引き込むことが大事だと思う。また 2 年程前から始まった「ひな祭りリレー」は、1 地区だけでなく他地区でも同様に同じような期間開催され、非常に好評であった。八幡地区は今年、1,000 人以上が来館され、石蔵の最高入館者数ということで衝撃を受けた。
- ・人口について、大きい地区・小さい地区存在するが、課題は共通である。48 地区

コミュニティ協議会という組織があるが、最も少ない地区コミュニティ協議会は15人。最も大きな平佐西地区は1万4,000人。同じ地区コミュニティ協議会という名称で、自治組織として各々話し合いながら活動されている。

- 水引地区が2,100人、滄浪地区が300人、寄田地区が200人、八幡地区が1,100人、高来地区が2,000人、城上地区が1,000人、陽成地区が500人、吉川地区が150人、湯田地区が400人、西方地区が300人ということで、水引中学校区、平成中学校区でも人口の落差はある。やはり、繋がり・支え合い・声かけは非常に大事だと思う。
- 自治会内でも話し合いや情報共有、湯田地区の会長からもあったように、毎月決まった日に全自治会長が集まり、情報共有する仕組みは非常に大事だと考える。また、本日の令和コミュニティトークのように、同地区内の中学校区同士の情報交換も非常に大事である。
- 最後に、今年には薩摩川内市が誕生して20周年になる。20年前、合併協議会の事務局長を3年担った。当時は川内市が7万人、人口2位の樋脇町は7,000人、甕島の鹿島村が700人だった。このような9つ市町村が合併協議を経て合併し、20年経った今、構造的に人口課題はずっと存在し、その中のコミュニティ・自治会も同じ構図にあると思うので、様々な課題や地区振興計画の成果について、自治会・地区コミュニティ協議会と話し合い、率直な意見交換をしながら議論を続けていきたいと思う。
- 地区コミュニティ協議会内の組織、全市的な社会福祉協議会組織、全市的な消防団にも皆さんの率直な御意見を伝え、各地区コミの維持・活性化につながるよう努めていきたい。

2 市政の動向について

(1) 主な動き

- 令和5年11月8日には南九州西回り自動車道建設促進大会を実施し、令和6年1月4日には市誕生20周年記念懸垂幕のお披露目式を行った。
- 同じく1月27日に市役所、九電など6機関で川内原子力発電所に関する市民セミナーを開催した。
- 2月10日には、県原子力防災訓練を実施した。
- 2月11日には生涯学習フェスティバルを開催し、令和6年3月10日には、肥薩おれんじ鉄道も20周年を迎えた。
- 3月21日には、川内大綱引が国の重要無形民俗文化財に指定された。
- 新年度に入り、令和6年4月1日には市誕生20周年記念事業推進本部の設置、こども家庭センターの設置があった。
- 4月2日には、高速船も就航から10周年を迎えた。
- 4月15日には、サンアリーナせんだいでバレーボール女子日本代表チームが11年連続の合宿をし、現在パリオリンピックに出場されている。
- 4月24日は、川内港国際定期コンテナ航路が20周年を迎えた。
- 4月29日には、市役所の前の川内文化ホール跡地に、九州電力の施設であるセンノオトが開業した。赤ちゃんからご高齢の方まで非常に楽しんでいるので、市民の方が求めている要素がこのセンノオトに集約しているような印象がある。
- 5月18日には、南九州西回り自動車道阿久根川内道路の決起大会を行った。

- ・8月3日には、川内宮之城道路の決起大会を開催する予定である。

(2) 令和6年度当初予算のポイント

- ・令和6年度予算は、一般会計で575億6,000万円、過去20年で最大であった。重点項目は、子ども・子育て、コミュニティ、産業人材確保・移住定住、SDGsカーボンニュートラル、デジタル・トランスフォーメーション（超高度情報化に関する政策）、市誕生20周年の事業。主に6項目に力点を置いて予算を組んでいる。
- ・子ども・子育てについては、全国的な課題である。市も子育て応援券支給事業や産後ケア事業など、今年度は子ども・子育てに関する予算を88億円組み、これは当初予算の15%を占める。来年度から、18歳以下の子ども医療費の窓口負担をゼロにすることで議論を進めている。また、市民の方から「学校給食費を無償化してほしい」という要望が挙がっている。学校給食費を無償化するには5億円の費用がかかるが、このうち一部の約8,000万円については、今年から当分の間、物価高騰に伴う食材費上昇分を助成する。
- ・コミュニティについては、令和6年度から自治会運営交付金と地区コミュニティ協議会運営交付金を大幅に見直し、防犯灯電気料金などの支援を拡充して交付する。この自治会運営交付金と地区コミュニティ協議会運営交付金は、約2億円の予算で、おそらく43市町村で最大の補助金である。また今年から、テレビ難視聴自主共聴組合運営支援事業を設け、市単独の一部補助を開始した。
- ・産業人材確保・移住定住戦略について。人手不足解消のためには、人口減少対策が非常に重要であることから、本市の高校を卒業した者などが本市内の事業所に就職した場合、10万円分のSDGsポイントを支給する「若者就労支援事業（中高生ふるさと就職奨励金）」を今年から市単独で開始した。奨学金返還支援補助金については、これまでの制度を拡充し、大学、短期大学、専門学校等を卒業した人が本市内の事業所に就職した場合、最大で1人300万円までを市が補助することとした。今年受け付けた分は、来年7年度以降、今年支払った分に対して3分の2の補助を開始することとしている。また、介護人材確保育成補助金や新規及び後継者漁業就業者支援事業補助金についても新設した。
- ・20周年記念事業について、様々な市主催事業や冠事業を行う。特に川内大綱引については、保存会の方々の負担も大変ながらようやく国の重要無形民俗文化財に指定され、非常に画期的で誇るべきことだと思っている。
- ・DX活用促進事業（スマホ教室）については、全地区コミュニティ協議会で開催予定である。

(3) コミュニティ活性化策

- ・地区サポーター制度については、48地区に1人ずつ市の職員を配置した。西部エリアにおいては、各10地区に対し職員を地区サポーターとして配置しているので、さまざまな情報収集や困りごと、問い合わせについては、遠慮なくお尋ねいただきたい。
- ・自治会再編協議会補助金について、自治会の合併を協議する場合の補助金を拡充した。例えば樋脇地域や入来地域では、既に今年になって合併した自治会がある。本日も出席の自治会・地区コミュニティ協議会の中に隣の自治会と合併の話をするかということがあれば、遠慮なく市役所に相談し、補助金も活用いただきたい。状況によっては市職員が、会議にオブザーバーとして参加したり、他自

治体の合併の資料提供などを行ったりするので、遠慮なくご利用いただきたい。

(4) 空き家対策

- ・空き家について、空家改修サポート事業や空家利活用促進事業があるので、個別にお問い合わせいただきたい。
- ・緊急安全措置については、緊急安全措置業務委託により講じており、また、特に今年は空家等の実態調査を全市的に行うので、調査の際には皆さまの協力を願いたい。

(5) 川内港 唐浜地区 国際物流ターミナル整備事業

- ・川内港の京泊ふ頭、唐浜ふ頭を整備しており、国・県それぞれの整備事業があるが、特に市、それから市議会、民間事業者と一緒に、大きなガントリークレーンを設置していただくよう、要望を続けている。

※令和5年度令和コミュニティトークの意見の進捗状況について

- ・昨年度10月27日に開催した、令和5年度令和コミュニティトークにおいて、いただいた御意見については、個別に回答したものもあるが、概要について改めて報告する。
- ・まず当日、空き家対策についての御意見が多数出た。それを受け、令和6年1月1日付けで、産業人材確保・移住定住戦略室を設置し、空き家も含めた対応を充実させようと、実行計画を作り、現在展開しているところである。先ほど説明があったように様々な手続きがあるが、遠慮なく産業人材確保・移住定住戦略室にお問い合わせいただきたい。実際の対応は、建設部の空き家政策のグループと連動する流れである。
- ・防犯灯の電気料金について御意見をいただいた。助成額について「全額補助してほしい」などのご意見をいただいたが、結果的にはほぼ全額という形で助成制度を見直した。今年度から御案内の通り、地区コミュニティ協議会運営交付金および自治会運営交付金の内容を見直したことに合わせ、防犯灯の電気料金の支援も拡充したところである。
- ・ゴールド集落支援の承継について、高齢化に応じた特別加算を行う活性化推進分を新たに創設し、見直しを行った。6月中に全ての支払いを終わらせ、交付しているところである。
- ・子ども政策の充実についての御意見もいただいた。今年度7月1日に、八幡児童クラブを開設したことで対応させていただいた。
- ・物価高騰に対する市の対策についての御意見もいただいた。「プレミアム商品券を発行してほしい」という声もあったが、結果的には国の交付金を活用し、令和6年1月または2月検定分のLPガス料金を値引きする事業、市内店舗でキャッシュレス決済を使用した際にポイント還元を行う事業の2つを実施したところである。

3 事前提出議題

議題1 道路の補修について【水引地区】

道路の補修についての御意見である。旧火力発電所に行く産業道路と県道京泊草道線（338号線）のT字路は大型トレーラー、トラックが通行するため、道路が非常に傷んでいる。補修工事はしていただいているが、すぐに道路が荒れる状態であ

る。この付近は通学路でもあり、大変危険なので抜本的な対策を講じてほしい。

回答としては、臨港道路（産業道路）における T 字路の補修について、管理者である県北薩地域振興局に確認したところ、工事を既に発注済みとのことであった。施工に入る時期については現在未確定なので、工事に入る時期がわかり次第連絡をさせていただきたい。なお、現場は 6 月 28 日に段差注意などの看板を設置して、7 月 8 日には舗装の応急的な措置を行っている。

【意見：水引地区】

今のところ舗装していただいているので、良い状態である。10t トラック、トレーラーが毎日どの時間帯でも通っているので、抜本的な対策をいずれ行っていただきたい。

未来政策部長

抜本的な改修について、工事の発注は完了しており、来年の 1 月までに抜本的な工事をしたいということであったが、具体的な工期ははまだはっきりしないので、改めて連絡をさせていただく。現在の舗装はあくまで暫定という位置付けである。

議題 2 県道吉川線（市道瀬之岡・丸山線交差点～上川内交差点）の交通渋滞解消対策の進捗状況と安全対策（街灯設置）について【高来地区】

県道吉川川内線の交通渋滞解消対策の進捗状況と安全対策についてである。本協議会は令和 4 年度に地域住民の安心・安全な生活条件の確保について、県道吉川川内線の交通渋滞解消のために国道 3 号線へのアクセス道路、国道 267 号線への新しいアクセス道路の具体化について議題とした。そこで、昨年 9 月 13 日に、平成中・北中校区の渋滞対策として 9 カ所で交通量調査を市が実施し、その結果について報告がなされた。具体的な解消対策として、調査前に県道吉川川内線から市道西町・瀬之岡線に向けての右折レーンの設置がなされた。これについては直進車と右折車の交通がうまく機能している。逆に市道西町・瀬之岡線から県道への右折レーンは形式的であって、全然機能していない。右左折車両は狭くて同時にそれぞれのレーンに入れられない状態である。道路横にある溝を歩道にしてという説明もあったが、その実施についてはどうなっているのかをまずお聞きしたい。

また、市道瀬之岡・丸山線、県道の交差点から、国道 3 号線までの時間帯による交通渋滞は依然として解消されていない。この点についてはどのように考えているのか、伺いたい。

最後に、県道吉川川内線は街灯が少なく、夜間の走行が危険であるとの苦情が多く寄せられている。そこで少なくとも次の 2 カ所に街路灯を強く要望する。この 2 カ所というのは、株式会社可愛印刷の斜め前の横断歩道がある場所と市道高城・御陵下交差点＜太田機工株式会社の前＞のことを指している。

まず、渋滞についての回答である。交通渋滞の解消策として市道西町・瀬之岡線から県道吉川川内線の交差点に、幅員 3m、延長約 65m の左折レーンを計画している。工事にあたり支障となる物件を移設する必要がある、移設には時間を要することから、昨年度少しでも渋滞を緩和するために、普通車が 2 台並ぶことができる幅員 4.5m で暫定的な整備をしたところである。先ほどの質問では、この部分がうまく左右一緒に車が並んでない場合もあり、機能してないのではないかという御指摘であったと思う。市としては、車が 2 台並んでいる状況を確認しているが、この右

左折の車線をラインで明示していないことなどから、十分な効果が表れていないことは認識している。支障となる物件の移設には期間を要するため、今年度は水路を埋め、車道と歩道を確保するための工事を約100m実施しようと考えている。最終形ではないが、これにより効果が現れるものと考えている。また、京セラ株式会社鹿児島川内工場では、社外の寮からの出勤者の増加に伴う朝夕の出勤時の渋滞緩和を図るため、令和6年4月から9月30日までの予定で、大型バス2台を使用し、従業員の送迎シャトルバスの実証運行を実施しているところである。市としても実証運行の成果を検証しながら渋滞緩和に向けた協議を京セラ株式会社と続けてまいりたい。

また、県道吉川川内線の交通渋滞解消対策については、県道の管理者である鹿児島県北薩地域振興局に確認したところ、各関係機関と協議を進めてまいりたいということで、回答いただいている。市としても強く要望しているところである。

最後に、街灯設置についての回答である。2カ所設置いただきたいとのことで提案があったが、これも県道の管理者である北薩地域振興局に確認したところ、株式会社可愛印刷の斜め前の横断歩道箇所については、既存の街灯が不具合により点灯してないようだが、LEDの更新により不具合を解消することで対応したいとのことであった。市道高城・御陵下交差点<太田機工株式会社の前>については、県道としての管理者である道路照明施設の新規設置は難しいと回答があったので、地区コミュニティ協議会と一緒に対応を考えていきたい。

【意見：高来地区】

京セラ株式会社の送迎シャトルバスは、今年の4月から9月までの暫定的なものなのか。

未来政策部長

現段階では9月末までと伺っている。実際の利用状況などを検証し、今後の取り扱いを決めるということであくまで実証段階である。

【追加意見：高来地区】

渋滞解消に向けて関係機関と協議しているということだが、なかなか進展していないと感じる。令和4年度にも全く同じ要望を出しているが、2年経過しているにもかかわらず、地域における苦情は、同じように続いている。つまり、その時の状況が今でも続いているということである。関係機関と協議の上、前向きに解消されるような対策はとられるのか伺いたい。

未来政策部長

鹿児島県の動きに合わせて、市も一緒に取り組んでいるが、これは渋滞解消に向けた前向きな検討ということで、認識している。しかし、時間が掛かってしまっており申し訳なく思っている。

一方で、市としても京セラ株式会社に対し、社員の通勤退勤時に分散して経路を利用していただくなどの渋滞緩和対策のお願いをしているところである。これが完全に解消するのはなかなか難しいかと思うが、少しでも前に進むように取り組んでいるところである。

【追加意見：高来地区】

株式会社可愛印刷の斜め前の横断歩道箇所については、LEDの更新により不具合を解消することで対応していただくとのことであった。もう1カ所の太田機工株式会社前のところは、県の事業になるが、最終的には市と協議しながらの対応になるのではないのか。それについては、どのように考えているか。

建設部長

街灯設置を希望されている箇所は、県道と市道との交差点にある。市としては、県道側に横断歩道があるため、県の方で対応いただきたいと考えており、要望しているが、県から良い回答をいただけていない現状である。今後も、県と協議し、できるだけ設置する方向で協議を進めてまいりたい。

【意見：高来地区】

設置できるよう、進めていただきたい。

議題3 城上幼稚園の存続について【城上地区】

城上幼稚園の存続についての御意見である。現在、園児が5名在籍しているが、令和7年度より10名園児を確保しなければ、幼稚園適正規模等検討委員会（令和4年7月～令和6年3月）にて、廃園になると決定している。当コミュニティ協議会では、地域のためにはとても重要な問題であり、コミュニティスクールの観点においても、現在存続に向け10名の確保を目指しPRなどを行っている。そこで決定事項であるが、2点市へご協力をお願いしたい。1点目は、10名確保運動への市からの援助、2点目は、人数の見直しなどの再検討という要望である。

まず、10名確保の運動への市からの援助についての回答である。市として、園児確保のため、4つの取り組みを行っている。1つ目は、ご要望に応える形で令和5年度から保護者支援として、一時預かり事業を実施。2つ目は、年間を通して各園の魅力アピールする幼稚園だよりをホームページに掲載。3つ目は、入園申し込みの11月前に、各幼稚園による募集チラシを配布。4つ目は、ホームページによる募集案内。以上4つの取り組みを実施しているところである。

2点目の人数の見直しなどの再検討についての回答である。城上幼稚園は小学校と隣接しており、園児にとって良い教育環境であることは理解しているが、園児募集の状況により、10人を下回った場合は、統廃合する方針で作業を進めていることから、現在この人数の見直しは考えていないところである。

【意見：城上地区】

幼稚園存続の検討委員会に参加し議論したが、正直なところ廃園ありきという形で話が進んでおり、なかなか反対するような雰囲気ではなかった。決定事項は仕方ないが、公立幼稚園は最終的に廃園する方向なのか。もしくは、亀山と東郷の2つに統合するという形で存続させるのか。

また、部長から市が取り組む幼稚園の広報活動などについて説明いただいたが、一般の方が目にする機会が少ないように感じている。できれば広報薩摩川内に各園の募集ではなく、各園をPRできるような特色や魅力のつまった記事を掲載いただければありがたい。要するに、平成中校区では、皆さんに学校運営協議会などで案内をしているが、なかなか市全体を通しては見ていただく機会が少ないように感じ

る。

今後、部長から説明いただいた4点の援助を含め、考えていただければと思う。

教育部長

再編方針については、全ての園が10人に満たない場合、総合的な判断のもと、園児数などを勘案していずれか1園に統合するという方針が出ている。

広報については、毎年11月1日から募集を行っているが、今年度も広報薩摩川内10月お知らせ版で市立幼稚園の園児募集を掲載、ホームページでも周知を図る予定である。

未来政策部長

先ほど広報紙について意見されたのは、募集の記事ではなく、魅力などをアピールできる記事を掲載してほしいという趣旨であった。そのような広報の在り方については、今後、教育部と一緒に検討してまいりたい。

【追加意見：城上地区】

おっしゃる通りである。要するに何を言いたかったかということ、城上には城上の幼稚園の在り方、それから幼稚園の環境、先ほど高来地区の方からもあったように、城上の小・中学校それから幼稚園は非常に良い環境にある。

清らかな高城川の傍にあり、そこでは水遊びやウナギ・アユの放流ができる環境で、他にない非常に良い幼稚園だと自負している。場所も県道から少し入ったところにある。それから朝晩、防犯パトロールも実施しており、非常に安心して子どもたちも過ごすことができる。要するに、城上の魅力をPRして、他の地域からも来ていただきたいというのが主な趣旨である。

今のところ検討委員会において、10名に満たない場合は亀山幼稚園と東郷幼稚園の2園にすると聞いている。しかし、亀山幼稚園も東郷幼稚園も10名集めるのに、なかなか苦労していると聞いた。そのような状況にあるなか今後、全面的な廃園もあり得るのか。

教育部長

先ほども申し上げたとおり、全面的な廃園ではなく、全ての園が10人に満たなかった場合、どこか1園に統合するという方針で進めている。

【意見：城上地区】

8月の再編説明会の内容は今と同じような状況か。

また、預かり保育について、今年の3月に教育部長から、夏休暇も冬休暇も預かり保育を実施するという了解いただいた上で、10名確保に努めているが、そのことについてはそのまま継続されているのか。

教育部長

まず、8月6日に行う幼稚園の再編説明会については、本日のような議論と議題を協議し、説明させていただきたいと考えている。

また、夏季休業中の預かり保育について、東郷幼稚園と亀山幼稚園は長期休業期間中も一時預かり事業を実施しているところである。城上幼稚園と樋脇幼稚園につ

いては、長期休業中は預かり保育はしてないという状況である。

【追加意見：城上地区】

そのことについては分かっているが、令和7年度から実施するという了解をもらっている。このことについてはずっと継続しているのか。

教育部長

令和7年度から再編を想定した場合、先ほど城上地区コミュニティ協議会長のご発言のとおり、預かり保育を実施する考えである。

議題4 旧湯田小、高城西中閉校舎について【湯田地区】

旧湯田小、高城西中閉校舎について御意見である。この各校舎が以前、企業誘致の話があったが立ち消えになり、それから話が無い。早期に企業誘致をお願いしたいという要望である。

回答である。この閉校跡地の利活用については、これまで事業化への相談が複数あったものの、民間事業者からの具体的な利活用の提案がない状況である。一方で、この経済活動の回復基調により、以前よりは視察などの問い合わせが増えている状況である。具体的な相談の前の視察の問い合わせなどは増えてきている。市としては今後、（仮称）湯田西方インターの供用開始による閉校跡地へのアクセス向上をアピールポイントと考えており、企業誘致を担当する部署や関係各課などと連携し、誘致に向け企業訪問の際には、積極的に閉校跡地の紹介に努めてまいりたい。

【意見：湯田地区】

よろしくお願いしたい。

【意見：滄浪地区】

湯田地区において閉校跡地の誘致がないということであった。滄浪地区においてもなかなか小学校の誘致がなかったが、やっとの思いで誘致ができるようになった。そのためには、地元の賛成がないとなかなか前に進まないと思う。たった1人でも反対すれば、話が進まなかった。なんとか反対の人達に納得していただけるよう説明してようやく誘致できるようになった。やはり、地元ではつきりしないと前に進まないと思う。

議題5 災害時避難経路「井高踏切」の拡幅について【西方地区】

災害時避難経路「井高踏切」の拡幅についてである。旧西方小学校体育館、西方地区コミュニティセンターが災害時の避難施設に指定されているが、当施設から避難者をバスで移動するには、踏切が狭くて通行できない状況にある。私たちの代だけでなく、子々孫々まで引き継がれる財産形成のため、また地域住民が安全で安心な暮らしを確保するためにも踏切の拡幅を行っていただきたいという御要望である。

回答として、この踏切の拡幅については、令和4年度に基本設計を行っている。現在、肥薩おれんじ鉄道と計画の協議まで完了している状況である。一方で、この踏切を南九州西回り自動車道の整備に伴う工事用の道路として利用する計画もある

ことから、引き続き西回り自動車道の整備を行う鹿児島国土事務所と調整してまいりたい。

4 フリートーク

【意見：湯田地区】

今年度は市制施行 20 周年ということで色々な冠事業を実施されている。市長は、合併事務局長として 20 年前に市の合併について考えていたと思うが、その当時、20 年後の市についてどのような夢を描いていたのか。

併せて 20 年後、30 年後に、いわゆる現在の小・中・高校生が 40、50 歳になった時、薩摩川内市でどのような生活をしているのかというようなアンケートや夢を語る会、夢トークなど、若者に対してこれからの未来について考える・語る機会を考えているのか。

市長

20 年前、第 1 次薩摩川内市総合計画および第 1 期 48 地区コミュニティ協議会の地区振興計画を作成した。私は 3 年間、合併事務局長であった。当時の市は、さまざまな課題があるなか、新市一体化と大きな交流拠点を目指し、9 市町村の巨大合併を進めてきた。合併時の大きな目的は、地区コミュニティ制度をつくること。県全体から見ても、自治組織連合会をつくることは、自治組織のあり方として良い組み立て方だと思う。それからこの 20 年間で予測しなかった新型コロナウイルス感染は、市の経済やさまざまな活動、特に人口減少について、多大な影響を与えた。全国的に見ても、人口減少への影響は非常に顕著になっている。財政的に見ると、令和 6 年度の予算は過去 20 年で最大であった。自主財源や国の補助金など、歳入の範囲内でさまざまな工夫をしながら予算を組み、市民サービスに寄与していることは 1 つの大きな成果である。

また、20 年後 30 年後の子どもたちのことについてである。今の子どもたちが 40、50 歳になる頃まで人口減少問題は続くと思われるため、今後もこのことについて絶えず議論をしていかなければならない。市の人口を増やすだけでなく、県全体で人口が循環できるような仕組みづくりが重要。人口が少ないことが悪いことではなく、急変する状況にどう対応していくか。例えると、人口 2,000 万人の国と人口 10 億人の国、どちらが良い・悪いかという議論ではない。つまり、人口が少なくても維持できるような循環の仕組みが整うかが重要である。その過程において、若者の意見が重要であることから、令和 2 年度から薩摩川内市みらいアドバイザー制度を実施している。これは、高校生の視点から魅力あるまちづくりに資する取り組みを企画・立案し、自ら実践する制度である。また、子育て中の方との意見交換会も来月行う予定である。

これからは、年代・老若男女問わず、あらゆる方から御意見を聞き、この町のあり方を絶えず議論していかなければならない。

【意見：高城地区】

道路整備について、市全体でどのように対処しているのかお聞きしたい。

隣町のいちき串木野市や長島町は、町全体の道路が非常に綺麗である。どのようにして綺麗さを維持されているのか分からないが、本市に入ると、ヤボだらけである。特に滄浪地区の港湾近くの通りは、歩道まで草が生い茂り、歩道としての役目

が全く果たされていない。県、市それぞれの管轄があるかと思うが、どのような仕組みで、どのような状況で道路整備がなされているのかお聞きしたい。

市長

基本的には、道路管理者の責任であるが、市道について草木が繁茂しているところがあれば、対応するようにしている。また、県道についても、その都度、県に対応を要請していきたい。この人口減少の状況のなかお願いするには心苦しい部分もあるが、手の届く範囲は地区コミュニティで作業いただくよう御協力願いたい。

周辺の草刈りなど可能な範囲で作業いただき、できない部分については市役所に御連絡いただければ現場を確認し、対応したい。

【意見：八幡地区】

5、6年前にも同様の要望をした。一本松から別府原に向かって左側に歩道ができるのではないかと聞いているが、草刈りなども地元で行っており、動きが一切ない。歩道ができないため、子どもたちを車で送迎している状況である。こちらの進捗状況についてお聞きしたい。

建設部長

場所は、県道沿いの歩道のところか。

市長

県道沿いの歩道整備については、用地買収を含め、過去に地元から2回反対があり、実施できなかった背景がある。

私が県議会議員の時、県道沿いのどこの歩道を整備するかということについて、八幡地区の総務部会で協議していただいた。議論の結果、今村地区が最も優先順位が高かった。八幡地区コミュニティセンターの反対側から平成中学校へ向かう通りのことで、ここについては、現地測量が終わり、10m程の歩道ができただがなぜかそこで止まっているという状況である。

別府原のところについては、簡易であるが、地元の県議の方も一生懸命されて、簡便な歩道ができており、優先順位的には2番目になっている。

再度、過去の用地買収の経緯と八幡地区コミュニティ協議会の北薩地域振興局に対する陳情の経過を調べていただきたい。

【意見：水引地区】

先日、水引地区コミュニティセンターで、防災講座を開催していただいた。2階で開催していただいたが、画面が途切れ、結果的に配布されたパンフレットのみで説明いただく形になった。フリーWi-Fiはあるが、水引地区コミュニティセンターが、避難所として指定されており、コミュニティセンターそのものが鉄筋コンクリートであるため、Wi-Fiが通じない状況にある。今後、Wi-Fiがないとどうしようもないため、2階にもルーターをつけていただきたい。

未来政策部長

確認させていただきたい。

【意見：城上地区】

城上地区では、子どもの学校登下校時に、2台の青パトで子どもの安全安心を見守っている。今寺の旧県道沿いのバス通りは、先日の大雨によって溜まった雨水が1週間以上も引かず、そのままになっており、そこから大きな穴が2カ所も空いている状況であった。地域の住民や平成中学校の校長先生から、どうにかならないかと相談があり、写真を撮って道路河川課へ相談したところ、すぐに対処するとのことで、1週間もしないうちに、全面張り替えていただいた。このことについて、大変感謝しており、私自身も相談して良かったと感じている。

今度は、別の件で相談したい。平成中学校を降りたところの県道には、信号機があるが、横断歩道が全て消えている。もし、そこで子どもたちが交通事故に遭ったら、当然警察は横断歩道上の事故として捜査すると思うが、被害者や加害者の立場からすると、どこが横断歩道なのかと言われるのは当然だと思う。そうした場合、その責任はどこにあるのか。どこかが瑕疵ある行為として責任を追及されるのではないと思う。つまり言いたいことは、横断歩道の整備をしていただけるのかということである。あるいはその窓口はどこなのか。8年前にも警察や交通安全協会に伝えたが「対処します。」の一言で、一向に動きが見られない。市役所にも連絡をしたが、良い回答が出てこないのが現状である。先日も平成中学校の校長先生から連絡があり、何とか早く、横断歩道の線を引いてもらえないかと話があった。

整備していただけるのか、あるいは窓口はどこなのかをはっきりしていただきたい。

建設部長

横断歩道については、所管が警察及び公安委員会なので、市としては、現地を確認し、写真撮影後、まず警察に対応をお願いしたいと考えている。それから警察の対応を確認したい。

【追加意見：城上地区】

先ほども申したが、8年前にも警察や交通安全協会へ相談に行った。子どもが事故に遭ったらどうするのかと。結局、「対処します」で終わった。

【意見：城上地区】

この歩道の件については、さまざまな方向から話があり、高来地区からも交通安全協会にお願いしたところ、県から「受け付けているが、順番待ちだ」と返答があった。この順番を早くしていただくよう、県に掛け合い、早期に完成するよう調整していただきたい。

市長

このことを直ちに伝え、受け付けた時点での回答についても城上地区コミュニティ協議会の方にお伝えしたいと思う。

【意見：陽成地区】

元気の源になっている介護予防元気度アップカードについての要望である。65歳以上を対象に、行事やイベントに参加すればスタンプがもらえることから、70代・80代の方がいろいろな行事に参加されている。4月から始まっているにもかかわらず

ず、現時点でいっぱいになっている方もいることから、2冊目も欲しいという声があった。例えば2冊目については、半額でもいただけたらありがたい。

市長

今年から高齢者の方向けのサロンの補助金も復活したところである。ご要望のあった介護予防元気度アップカードについては、全市的な利用の状況や、他地区から同様の御要望がないかなど確認させていただきたい。

【意見：高来地区】

通学路にもなっている津山の坂が、7月の災害時にかげ崩れでしばらく通行できなかった。毎年のように陳情しているが、市は県に対応をお願いしているのか。何回も県議会議員の方々と話し合いをしているが、何10年経っても、全然拡張されず、歩道は整備されない。どうしたら整備していただけるのかお聞きしたい。

建設部長

御要望のあった箇所は、高城小学校を超えて、一番峠のところだと理解している。市としては、地元からの要望もあり、長年にわたって毎年県に要望しているところである。県が要望箇所も多い中で優先順位などを判断され実施されている。本日の令和コミュニティトークにおいて再度要望があったことを伝え、県に強く要望してまいりたい。